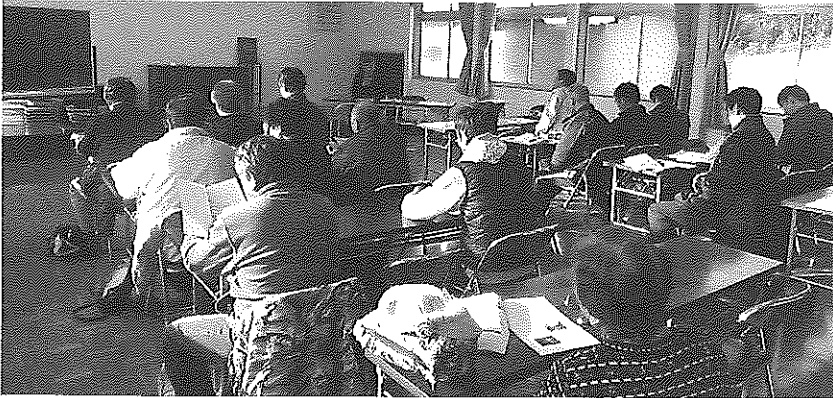


林業技術センター  
普及班便り  
(第62回)

## いわての 林業人41

一 はじめに

今月の普及班便りでは、岩手の特  
用林産の担い手として、軽米町で原  
木シイタケ栽培に取り組む菅原敏見  
さんをご紹介します。



菅原敏見さん（奥中央）原木シイタケ研修講師の様子

### 二 参入のきっかけ

菅原さんは現在54歳。平成25年4  
月に約30年勤めた役場を退職し、父  
の後を継ぎ原木シイタケ栽培に本格  
的に携わるようになりました。数年  
前には経営委譲を受け、勤めのかた  
わら栽培をしてみました。作業面  
では専ら父に頼ることが多く、繁忙  
期や休みの日に手伝うことが主でし  
た。「実際に一から十までシイタケの  
作業をしてみるとやっぱり大変だと  
感じます。でも年齢的には良い時期  
に栽培を引き継いだと思っています。  
風評被害で厳しい時になぜ経営を  
引き継ぐことを決めたのかと聞かれ  
ますが、定年まで勤めた時の父の年  
齢を考えると、今のうちに現場のノ  
ウハウを学んでおいたほうが良いと  
考えたからです。」

風評被害もいつかは必ず終息する  
だろうから、今頑張つて続けていれ  
ば将来的には十分経営は成り立つと  
思っています。消費者の理解が進め  
ば、再び安全・安心な原木シイタケ  
が認知されると考えています。」  
(菅原さん談)

### 三 栽培方法

原木は地元の山を立木購入し、元  
森林組合の作業班の方に委託して伐  
採しています。植菌は冬季から春先

にかけてハウス内で行い、そのまま  
ハウス内でビニール被覆仮伏せを行っ  
ています。

6月下旬から7月上旬にかけては、  
小く中径木は、暖かく、風通しの良  
いマツ林に本伏せを行っています。

同地は気温の低い地域であること  
から、「ホダ木作りが難しい」とこの  
と。また、年間降水量が1000ミ  
リ程度しかないため、乾シイタケ栽培  
を行う上で、単収アップに欠かせな  
いのが散水管理とのこと。

ホダ場は、150基のスプリンク  
ラーを設置していますが、水源が近  
くにならないために1500ミ（高低差  
120ミ）離れた川から一旦ため池へ  
の中継を挟むかたちで、10馬力のター  
ビンポンプ2台で揚水しています。

以前は、有孔ポリ被覆も行ってい  
ましたが、現在はそれに代わり成長  
促進散水を行っています。収穫時、  
乾燥気象が続くときには、きのこの  
傘表面に亀裂が入らないうちに、一  
日の収穫が終わる都度15〜30分程度  
の散水を繰り返すし、採り遅れになら  
ないように細心の注意を図りながら、  
巻込みが全開しないギリギリのここ  
ろまで開かせて収穫しています。

また、乾燥機は菌興式C-60型6  
台とTC-45型1台（全自動）を所  
有するほかに、乾燥効率を上げるた

めに自作の仕上げ用乾燥機を使用し  
ています。

### 四 おわりに

出荷先は、主に系統と直売で、そ  
れぞれ出荷物の規格を変えているそ  
うです。また、自分が手を掛けたホ  
ダ木からたくさん出た時や、お客さ  
んから「おいしかった」と言われた  
時は、「やって良かった」と思うそ  
うで、時に「お客さんから頂く御礼  
の手紙も、嬉しいものだ」と話して  
いました。今後も、やる気と工夫に  
あふれた栽培で、岩手のシイタケの  
良さを広めてください。

林業技術センター普及班

019(698)1337



ハウス内仮伏せ